



鹿児島県護憲平和 フォーラム情報

NO—143 2023.1.1

発行：鹿児島県護憲平和フォーラム E mail:kenheiwa@bronze.ocn.ne.jp

連絡先：鹿児島市鴨池新町 5-7 TEL 099-252-8585 FAX099-258-4560

「今年こそは」と思う

共同代表 下馬場 学



新たな年を迎えるにあたり「今年こそは」と思う。

さも当然かのように「今後5年間で防衛費43兆円」への増税・国債、または復興予算の活用などの論議が繰り返されています。「敵基地攻撃能力」を是認する「防衛3文書」の改訂が閣議決定しました。武力の放棄を宣言した、わが国においてです。「どのような安全保障体制を作るのか、それはなぜなのか？」の論議が見えないまま、国民は置き去りにされています。前号の平井共同代表の『脅威論』の『驚異』がここにあると思います。

突然のロシアによるウクライナ侵攻では、子どもを含む多くの人々が犠牲になり、権力者の思惑によって、人の命が奪われ生活が破壊されてきました。何故「戦争は、絶対にいけないことが守られないのか？」そして、そのことに便乗し、軍事強化を企む輩に憎悪さえ覚ます。それと同時に、侵攻前年に多量の軍備が欧米からウクライナに持ち込まれていたこと、NATOとウクライナとの関係についてロシアが歴史的観点から異議を唱え、それに欧米が真摯に対応してこなかったことなどは報道されていないことに、権力の思惑が透けて見えます。今は、真剣な外交こそが必要です。ウクライナの状況に加え、ペロシ米国下院議長の訪台に抗議する、中国の軍事訓練を利用した「台湾有事」や与那国島の漁場20~30km地点へのミサイル落下で、琉球弧への軍事的危機が大きく喧伝されています。議長の訪問が中国の反発も招く行動であることは自明のことであり、その行動への疑問は論議されないのでしょうか。11月にあまみ、徳之島において、初めての日米合同軍事演習・キーンソード（鋭い剣）が実施されました。私は、反対集会と監視行動に参加しました。目前に迫る水陸両用戦車AAV7や轟音を立てて着陸・離陸するオスプレイのその迫力に驚き、恐怖しました。9月には奄美で日米合同軍事演習・オリエントシールド（東洋の盾）が実施されましたが、有事の際に琉球弧が「盾」となり、戦争の準備ができ次第「鋭い剣」で反撃する訓練です。その間、当然島民は犠牲になります。琉球弧は「捨て石」になるのでしょうか。

また、原発政策においても、歴史的な転換が岸田政権で実施されようとしています。稼働延長によるリスクや電気は足りている事実に加え行き場の無い『核のゴミ』高速増殖炉「もんじゅ」の廃炉に青森県六ヶ所再処理工場の稼働不全などの核燃料サイクルの破綻の事実は国民には知らされていません。原発による発電が、高価であることも、未だに避難生活を強いられている人々や甲状腺ガンの恐怖にいる子どもたち、失われた故郷を持つ被災者のことを、私たちは決して忘れません。かつて「非武装中立」を唱えることに対し「平

和ボケ」と揶揄されてきました。極超音速ミサイルの時代「敵基地攻撃能力」で対応できると信じていることこそが「平和ボケ」ではないでしょうか。日本は今、国民の命が奪われ「安全保障を高める」ことが相手国の軍事強化＝国民の危機という「安全保障のジレンマ」に陥っています。私たちはあの悲惨な戦争の中から「平和憲法」を、国民の生きる指針としました。また「福島の実態」から「核と人類は共存できない」ことも確信してきました。県フォーラムのとりくみや闘いの正しさは、歴史が証明するはずです。自信と誇りを持って、連帯して闘っていきましょう。

北薩ブロック「12・8不戦を誓う日の集会」開催

12月8日(木)18時30分から、北薩ブロック平和運動センターと県護憲平和フォーラム共催で「12・8不戦を誓う日の集会」を、出水市中央公民館で開催しました。

講師に「馬毛島への米軍施設に反対する市民・団体連絡会」相談役、牧洋一郎さんを招き、馬毛島軍事基地化に揺れる西之表市の現状を報告していただきました。当日は、寒さの増す平日にもかかわらず、北薩ブロック平和運動センター傘下の各労組の組合員や退職者、個人会員を含め90人が参加しました。



講演中の牧洋一郎さん

講演までの30分間、鹿教組の退職者を含む仲間による歌声で会場は暖かくなり、開会にあたって北薩ブロック平和運動センターの田中早人議長が「増税をして戦争に使う装備品を買い、軍拡路線を進める岸田政権が安保三文書を改定し、日本が米国と一体化して、一緒に戦争をするために突き進むことを許すわけにはいかない。憲法9条も変えられそうな状況下、戦後77年目で平和が最大の危機にあるだけに、私たちが周りの人たちに平和の大切さを訴えていきましょう」と呼びかけました。

続いて県護憲平和フォーラムの下馬場学共同代表が、南西諸島が戦場になろうとしている状況を、危機感をもって訴え、節目の行事2・11(紀元節復活反対)5・3(憲法記念日)8・15(終戦記念日)9・18(柳条湖事件)12・8(真珠湾攻撃)など、県フォーラムが毎年とりくむ意義と「武力では、平和は築けない。米国のために日本が犠牲になることを許してはいけない。そのためにも反対の声を出し続けることが、日本が戦争をしない国になります。これからも頑張っていくましよう」と訴え開会行事を終えました。

講演で、牧さんは、住んでいる種子島の状況に触れながら、自身がこの馬毛島基地建設反対に参加したことについては無し、軍事基地建設問題で、島民の反対・賛成の意見が、西之表市議会の意見も半々という状況で、当初反対の立場だった八板西之表市長も「防衛省に、特段の配慮」を求めたことに怒りを込めて触れ「私がこの運動に参加したのは、戦争をしたら終わりであり、いかなる理由があっても反対する」と力強く話しました。

また、米国の対中抑止力戦の最前線に利用されている南西諸島、その一つとして進められている馬毛島の米軍基地建設の状況について映像を通じた詳細に加え、地元の同意なしに、一方的に基地整備を進める住民軽視の姿勢、米軍再編交付金で西之表市民を分断していること、そしてなにより馬毛島が、米海軍空母艦載機陸上離発着訓練（FCLP）の恒久的な移転先だけでなく、南西諸島の新たな自衛隊の活動・訓練・物資の集積展開拠点にしようとしていることが問題で、八板市長の考えの変化や県知事の容認発言などで、地元での反対運動は困難をきわめています。現在、市長リコール運動を厳しい状況下でとりくみを進めていることも報告しました。

最後に、北薩ブロック平和運動センターの川中正人副議長が『戦争が廊下の奥に立ってゐた（渡邊白泉の句）』を引用し「気づいたら戦争は近くにきている。気づいたら巻き込まれている」とならないように、本日の講演を新たな出発点に、これからもとりくむことの重要性を訴え、閉会のあいさつを行い終了しました。

感想にあるに、20代～70代までの参加があり、特に若い世代の参加が多い集会は、質疑応答の時間はできませんでした。「参加して良かった」というたくさんの感想をいただきました。



オープニングセレモニー

以下は、感想文です。

- 「オープニングの音楽がとてもすてきでよかったです。音楽が楽しめる、こんな世の中が続けばいいですね」
- 防衛費をまた増やすの??と考えていたので、議長の挨拶を聞き国に腹立たしい気持ちになりました。
- （代表の）キーンソードの訓練を見ていた住民が『ありがとう』と言ったことは非常に怖いことです。こういう世論を、ひっくり返していかないといけないと強く思います。
- 『戦争は絶対させない』反戦・平和の思いを強く持ちながら、粘り強く運動を作っておられて頭が下がる。
- 住民との合意形成を図らずに基地計画は、まさに政治的暴力。種子島の穏やかな日常が失われる現実が、自分の知らない間に進んでしまっていることがショックだった。
- 地元の運動はとても辛いので、外にいる私たちが大きく声を上げねばならない。
- 参加者が多く、とても意義のある会だった。若者が多いことが、とても嬉しいです。

報告（北薩ブロック平和運動センター事務局長：早崎）

熊毛ブロック護憲平和フォーラムの紹介

【活動エリア・構成組織】

熊毛ブロック護憲平和フォーラムは、熊毛地区一市三町（西之表市・中種子町・南種子町・屋久島町）が活動エリアで、西之表市職労・中種子町職労・南種子町職労・屋久島町職労・県職労熊毛支部・コスモテック労組・せいざん病院労組・市丸タクシー労組・鹿教組熊毛支部・高教組熊毛支部・かごしまフォーラム・私鉄鹿児島交通労組・林野労組屋久島分会・ろうきん労組の 14 単組で構成され活動しております。

【活動内容】

この 1・2 年は紙面や文書での開催・報告となることも多いですが、機関会議として、年 1 回の定期総会と随時開催の役員会・幹事会を開催し、年間の活動方針、各問題や関係団体との連携のための取り組みに対する方向性を決定するなど、構成団体一丸となって活動を進めているところであります。

特に、ここ数年は馬毛島への米軍軍事施設建設反対に関係する活動が大きな取り組みとなっており、12・8 不戦を誓う日の集会等の節目における講演会や勉強会の開催をはじめ、日米合同軍事訓練や馬毛島に係る国の報道や説明のための大臣訪問などに合わせ、「馬毛島への米軍施設に反対する市民・団体連絡会」に役員として参画するなど、関係団体と連携しながら抗議運動等により島民へのアピールを根気強く続けています。

しかしながら、国は計画をなし崩し的に進めてきており、今後更に厳しい局面を迎えていくことが予想されますので、より一層組織内の強化と関係団体との連携を密にしながら運動を進めていくこととしております。

この他、護憲・反戦平和・反核・脱原発に向けた各運動への参加も各構成単組へ働きかけながら、地域における労働者福祉運動等にもフォーラムとして積極的に参画し、構成単組の方々の研鑽や交流にも寄与できるよう努めております。

